



学校だより

(7月号) 令和6年6月28日発行

<https://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子
- 《今月の生活目標》 ろうかは静かに右側を歩こう

自分からあいさつのできる子 ～学校と家庭で躰けていく～

校長 岡田 健彦

日光戦場ヶ原ハイキング



今月、6年生は、日光修学旅行、5年生は、館岩少年自然の家での宿泊学習を終えました。児童の様子を見てみると、自ら進んで取り組むことができるようになったり、よく考え、場に応じた行動がとれるようになったりするなど、ひと回り成長した印象を受けました。あらためて、集団での宿泊を伴う行事の重要性を認識しました。

さて、山登りやハイキングの際には、すれ違った方とあいさつを交わすマナーがあります。これは、あいさつをすることで、自分の存在を相手に記憶させ、遭難事故等の万が一の場合に、その目撃情報もとに、遭難場所を特定しやすくし、早期救助に繋げることを目的としているそうです。本校の児童は、すれ違う人に「こんにちは」とよくあいさつをしていました。とても清々しい気持ちになりました。

一方、先日、学校運営協議会が開かれ、委員の方々から学校に対する様々な御意見をいただきましたが、その中に、ぜひ、あいさつを頑張ってもらいたいという御意見をいただきました。本校では、週明けの登校時に計画委員の児童と担当教員で「あいさつ運動」をして、気持ちよく学校生活をスタートできるようにしています。朝のあいさつは、登山の際のあいさつと意味合いが異なり、相手とのコミュニケーションのきっかけとして、相手の状況や気持ちを推し量ったり、相手からよりよく見られたいという気持ちをもとに、自分の気持ちを開いたりするために行います。また、基本的な社会のルールとして必要なマナーでもあります。相手に敬意や感謝の気持ちを示す大切な行為です。

一般的には、あいさつなどの基本的な生活習慣は、学校のみならず、家庭の躰として身に付けさせるべきものと言われます。

子どもがあいさつできるようにするためには、親が率先してあいさつをすることで、子どもに範を示すことができます。また、家族内、友人同士もあいさつをし合える環境を作ることも有効かと思えます。あいさつをするのは、時には勇気が必要で恥ずかしいものです。できていなくても無理強いするのではなく、できるようになることを見守り、できたら褒めるなどの手立てをとれるとよいと考えます。子どもは親の姿をよく見えています。そのため、親が率先してあいさつをすれば、その必要性を子どもも感じ取り、真似してするようになるでしょう。日々の生活のなかであいさつをする姿を見せ、「率先してあいさつをすること」がよいことであると子どもに伝えるようにしてみてもはいかがでしょうか。本校の目指す児童像「自分からあいさつのできる子」の実現に向けてお願いいたします。

最近、人とのかかわりが希薄化している印象があります。例えば、子どもたちがよく行くファミリーレストラン等の飲食店では、タッチパネルで注文し、ロボットが食事を運び、食事後はQRコードやバーコードを精算機にかざして代金を支払うといったように店員さんとのかかわりが一切なく、声も交わさないことが多くなりました。便利な世の中になりましたが、私は、子どもたちには店員さんに「ごちそうさまでした」「ありがとうございました」と御礼や感謝の気持ちをしっかりと伝えさせるべきであると考えます。このような時代だからこそ、他者への気遣いや配慮など日本のよき伝統文化として残っているあいさつ習慣をしっかりと後世に引き継いでいかなければならないと考えています。



